

2026年9月23日(水)

老球の細道942号

「シルバーウィーク」にバスケットボールを想う

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

老化を研究する東京大学の小林武彦教授によれば、古くからの人類の夢は三つあるという。一つは「賢くなりたい」、二つは「宇宙に行きたい」、この二つは AI (人工知能) と宇宙ロケットである程度解決してしまった。そして、最後に残ったのは「不老不死」である。(朝日新聞9月8日)。

「不老不死」は中国紀元前約2000年前の秦の始皇帝時代からの夢であるが、残念ながら達成にはまだまだ至らない。しかし、抗老化に関わる医学の研究は急速に進み、長寿で元気に生きている人の数は増えている。2025年9月時点で、日本の65歳以上人口は**3,619万人**となり、前年(2024年)の3,624万人から5万人減少したが、総人口に占める割合は29.4%と過去最高を更新した。今や3人に1人が高齢者。我が家の隣近所も高齢者ばかり。

私は「毎日が休日」「毎日が祝祭日」で生きている今、自分が老人になっている自覚がなかったせいか、9月15日の「敬老の日」が23日の「秋分の日」と合併して「シルバーウィーク」になったということを今年初めて知った。特に今年は19日(土)から23日(水)の5連休だった。子ども達家族は孫たちのミニバス大会があったために、家族旅行などに出かけずにスタンバイ。しかし残念ながら大会は前週の予選リーグで敗退したために、孫たちは5連休家で爺、婆と静かに過ごすしかなかった(父母は急遽仕事が入る)。

そんな穏やかな21日の「敬老の日」、孫達から「爺、婆いつもありがとう」「いつまでも元気でいてね」「まだ死なないでね」なる百万本のバラにも勝る黄金の殺し文句をもらった。すかさず、昔懐かしい加山雄三の決め台詞「シワ寄せだが幸せだなあ。死ぬまでおまえたちを離さないぞ!」とわけのわからないダジャレを話したが、当然孫たちには通用しない。

家の中でグタグタしていた私は、孫たちの言葉に元気をもらい、早速外に出てウォーキングをし、家の前の道路で次なるクリニックのためのドリブルワークを練習した。少しでも自分でデモンストレーションができればと思うのだが……。新聞では88歳になっても単独無寄港太平洋横断を実行しようとしている堀江さんや、80、90歳になっても自分の夢を追いつけるスーパー老人の記事が私に刺激を与える。ライバルは郷ひろみ、三浦雄一郎だけではない。

短パンと半袖でドリブルハンドリング、ドリブルチェンジの練習をしていたら、向かいの私より年上でゴルフ三昧のKさんに「かっこいいですね」と声をかけられた。私にはバスケットがあるから、人並みに元気な老人でいられる。改めて、バスケットボールとの出会い、バスケットボールに関わる人との出会いに感謝した。

「バスケットボール イズ マイライフ!」。バスケットでさらに自分自身を鍛え、病に打ち勝ち、バスケットでさらに人生を学び、熱意、誠意、創意、室意の奥義を極め、そして孫たちのバスケットを追っかけながら、さらに人生を楽しんでいきたい。